

## ●快適で魅力ある安全・安心なまちづくり

防犯・防災対策やバリアフリー対応が施され、都市の景観にも配慮された都市基盤整備を進め、潤いのある質の高い新時代のまちづくりを進めます。懸案となつている松原踏切道・架道橋整備は、踏切道の拡幅に引き続き架道橋の拡幅に着手し、慢性的な交通渋滞の解消と歩行者の安全確保を図ります。

拜島駅南口まちづくり事業は、具体的な都市計画制度の検討を進め、まちづくり協議会の運営を支援します。また、関連する都市計画道路などの用地取得を進め、事業の進ちよくに努めます。幹線道路や生活道路の整備は、安全性や快適性の向上を図り、街並みにゆとりや潤いを与えるため、実施計画に基づき整備します。また、道路照明など交通安全施設を計画的に整備し、段差解消や視覚障害者用誘導ブロックの設置など、人にやさしいまちづくりを進めます。

## ●賑わいと活力ある産業を支援するまちづくり

昭島の地域特性を生かし、商工

業や農業者の経営安定と、これらの基盤を支える就業・雇用機会を確保し活力ある産業を支援するまちづくりを進めます。

国及び東京都と連携した緊急雇用対策に取り組みます。商店街装飾灯補助の拡充や、安心・安全なまちづくり住まいの便利帳作成に補助を行います。

## ●市民との協働によるまちづくり

行財政を取り巻く環境が大きく変化する中で、的確に市民要望に対応するためには、自助・共助・公助を基本として、市民と行政が良きパートナーとして連携し、それぞれの役割と責任のもとに、協働によるまちづくりに取り組むことが大切です。

これまでも、自治会などを通して、地域の生活環境の維持・改善などを目指してさまざまな地域活動に取り組んでいます。道路や公園などの美化・清掃活動を行うアダプト事業も市の市民協働を推進する大きな役割を担っています。

今後は、こうした自治会をはじめとする地域のさまざまな市民活動団体と行政が有機的に連携



▲市民団体による清掃活動

した「新たな市民連携によるまちづくり」に努めて参ります。

21年度は、市民連携推進委員会を設置し、市民連携の指針を策定するとともに、情報コーナーなど活動基盤の整備に努めて参ります。

## ●市民の立場に立った市役所

急速な時代の変化の中で、高度化・多様化する市民ニーズに対し、的確な対応が求められています。「親切丁寧・迅速・確実」は市長就任以来の私のモットーですが、研修などを通じ職員一人ひとりが更なる研鑽に努めるとともに、庁内の組織にとらわれない横断的な情報の共有化を図り、意識改革や創意工夫など市民の皆様の目線に立った改善を図りながら、職員が一体的な認識のもとに行

財政運営に取り組んで参ります。新たに緑会館内に市民課窓口を開設し、各種証明書を交付するなど利便性の向上を図ります。また、公共施設予約端末機の更新を行うほか、10年後を見据えた情報化を進めるため、情報化推進計画を策定して参ります。

## ●立川基地跡地の土地利用

立川基地跡地の土地利用は、関係機関との連携を密にし、早期事業化が図れるよう努めます。

## ●横田基地

横田基地の航空機騒音は、引き続き東京都及び5市1町と連携し、騒音の軽減に努めるよう要請行動を行って参ります。

## ●男女共同参画

男女共同参画プランが22年度で満了となるため、現計画の検証をするるとともに、審議会を設置し、新計画の策定を進めます。

## ●終わりに

わが国の社会経済状況は、100年に一度ともいわれる世界経済の混乱により、実体経済にも大きな影響を及ぼし、市を取り巻く行財

政環境もより厳しさを増しています。しかしながら、このまちを次世代に引き継いで行くためには、変化する社会にスピード感を持って対応し、決して立ち止まることなく、一歩一歩確実に前に進み続けていかなければなりません。

こうした時代だからこそ、人と人とのつながりを大切にする気持ちを忘れず、困っている人に手を差し伸べたり、お年寄りや子どもたちに温かい声を掛けたりできるような、誰もが優しさや温もりを感じながら暮らせる、笑顔あふれる元気で品格のあるまちを築いていきたいと考えています。社会経済環境が大きく変化をしようとしている今日、私は、一つ一つの課題を真摯に受け止めながら、真つ向から全力で立ち向かい、勇気と使命感を持ちながら、人もまちも、自然・環境も、健康で元気な、自主自立のまち「あきしま」を、皆様とともに創り上げていきたいと考えています。

